

爪紅の黎明の風

(大正十五年開学五十周年記念寮歌)

井上哲郎君 作歌
河口忠雄君 作曲

一

爪紅の黎明の風
白羽簾へる若武者が
青春うち慕ふ風情あり
赤き血潮の溢れては
北溟の城花も散る
香ふ二十を愛しむ哉

二

いとすら若き鰯を
逆巻く潮に浮べつつ
宿命の羈絆解きうてば
無量無限の陽光に
真白き鳥のゆく如く
北海の奥の流離よ

三

ああ黒潮や、さざれ床
いるかの夢に身をひそめ
郷愁空に盃もなく
熱ある友を求めては
溢るる涙袖うちて
吾等が寮歌を含むなり

四

淡紅の花陰に
裸形の友も集ひして
生くる力の征矢ひけば
牧羊神も醒めつらむ
孤雲の彼方はるけくも
胸うちふるふ希望あり

五

されど悲恋の跼蹐は
浩蕩雲にむせびけむ
断腸を撞かむ巨鐘の
鐘樓の夢やいかなれば
嘆かひ濡るる月魄に
秘めにし曲をつたへずや

六

嗟呼青雲を吟じなば
月毛の駒に星止めむ
秋水義に反きては
破波の想堪へがたく
酒盃にむせぶ白雲の
乱るる醉歌に恨みあり

七

大熊星のさすほとり
快樂の濁舟ひくく見て
舞ひつ歌ひつ白羊の
あこがれ楡の駅路に
自由の泉青春を
うち連れ汲まん誇り哉